

2010年3月期 決算説明会

2010年5月17日

 **古河機械金属株式会社**

* 本資料の予想につきましては、説明会開催日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

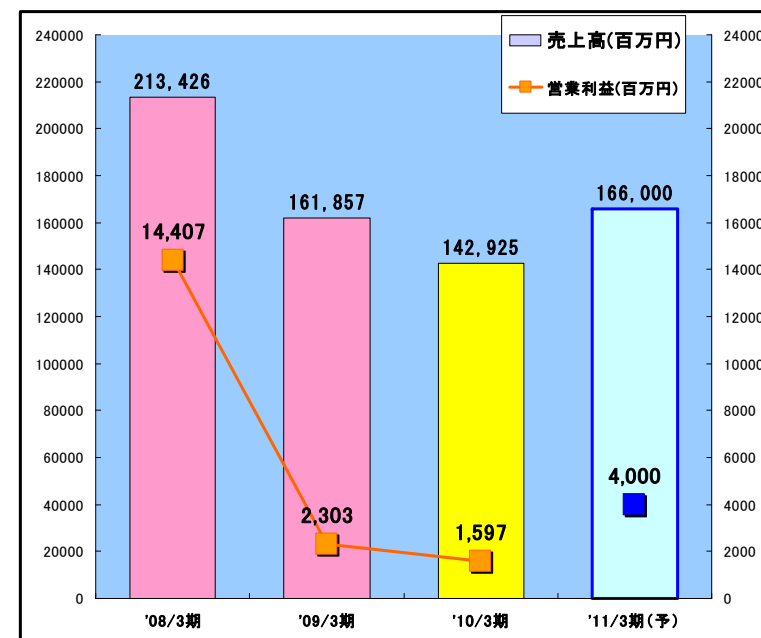
〔業績〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	対09/3期 増減	11年3月期 予想
売上高	213,426	161,857	142,925	△18,932	166,000
営業利益	14,407	2,303	1,597	△705	4,000
経常利益	12,940	993	111	△882	1,500
当期純利益	8,595	△5,917	585	6,503	600

〔財務状況〕

		09年3月期	10年3月期	対09/3期 増減
総資産	百万円	188,361	204,774	16,412
純資産	百万円	45,742	50,855	5,113
自己資本比率	%	23.7	23.9	0.2
1株当たり純資産	円	110.31	120.96	10.65



部門別業績及び予想(連結)

〔売上高〕

(単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	対09/3期増減	対09/3期比
機械部門	62,639	44,313	△18,326	71%
（産業機械）	(15,836)	(12,783)	(△3,052)	81%
（開発機械）	(29,427)	(20,386)	(△9,040)	69%
（ユニック）	(17,375)	(11,142)	(△6,233)	64%
金属部門	68,786	71,132	2,346	103%
電子化成品部門	11,388	10,995	△393	97%
（電子）	(5,568)	(5,969)	(401)	107%
（化成品）	(5,820)	(5,025)	(△795)	86%
塗料部門(※)	—	3,692	3,692	—
不動産部門	2,386	2,043	△342	86%
燃料部門	15,452	9,893	△5,559	64%
その他	1,204	854	△349	71%
合計	161,857	142,925	△18,932	88%

(単位:百万円)

11年3月期予想	対10/3期増減	対10/3期比
55,400	11,087	125%
(14,700)	(1,916)	115%
(24,500)	(4,113)	120%
(16,200)	(5,058)	145%
70,600	△533	99%
10,600	△395	96%
(6,200)	(230)	104%
(4,400)	(△625)	88%
14,700	11,007	398%
1,500	△544	73%
12,400	2,507	125%
800	△54	94%
166,000	23,075	116%

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	対09/3期増減	対09/3期比
機械部門	1,733	△3,009	△4,743	—
（産業機械）	(767)	(433)	(△334)	56%
（開発機械）	(255)	(△2,572)	(△2,827)	—
（ユニック）	(710)	(△870)	(△1,581)	—
金属部門	23	3,224	3,201	14017%
電子化成品部門	206	762	556	370%
（電子）	(4)	(657)	(653)	16425%
（化成品）	(201)	(105)	(△96)	52%
塗料部門(※)	—	△19	△19	—
不動産部門	706	1,128	422	160%
燃料部門	202	△29	△232	—
その他	△304	△376	△72	—
消去又は全社	△264	△83	181	—
合計	2,303	1,597	△705	69%

(単位:百万円)

11年3月期予想	対10/3期増減	対10/3期比
2,770	5,779	—
(850)	(417)	196%
(380)	(2,952)	—
(1,540)	(2,410)	—
△480	△3,704	—
1,010	248	133%
(720)	(63)	110%
(290)	(185)	276%
310	329	—
500	△628	44%
60	89	—
△50	326	—
△120	△36	—
4,000	2,403	250%

※09/12に(株)トウペ（塗料事業）を連結子会社化

部門別業績(連結)の主な増減説明

〔売上高〕

(単位:百万円)

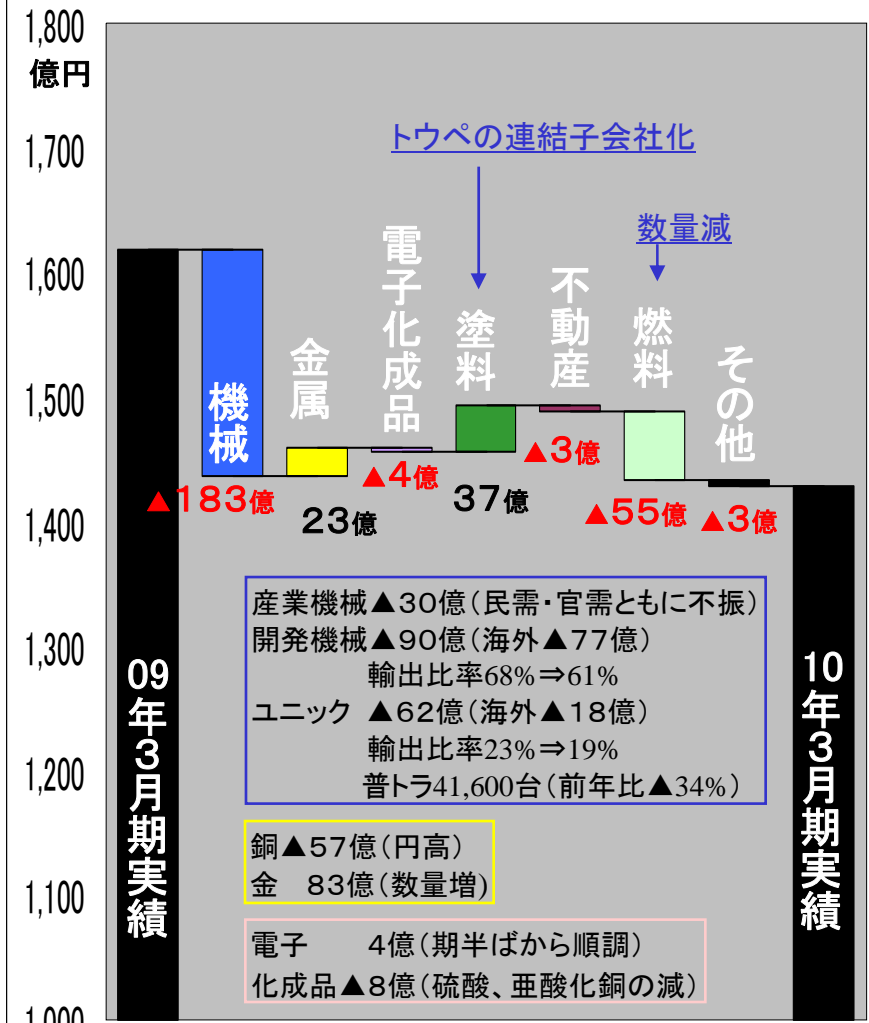
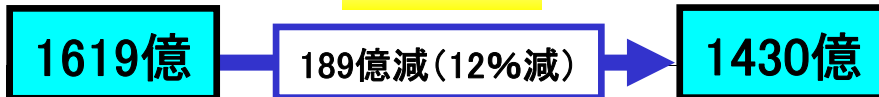
	09年3月期	10年3月期	対09/3期増減	主な増減説明
機械部門	62,639	44,313	△18,326	
（産業機械）	(15,836)	(12,783)	(△3,052)	民需並びに官需の減少による産業機械製品全般の売上減
（開発機械）	(29,427)	(20,386)	(△9,040)	世界需要減退によるロックドリル製品の売上減(海外77億円減、国内13億円減)
（ユニック）	(17,375)	(11,142)	(△6,233)	世界需要減退並びに国内普通トラック不振に伴う販売減(海外17億円減、国内44億円減)
金属部門	68,786	71,132	2,346	金の価格上昇並びに販売数量増により売上増(銅は価格上昇するも円高により売上減)
電子化成品部門	11,388	10,995	△393	
（電子）	(5,568)	(5,969)	(401)	半導体市況の回復により高純度金属ヒ素等結晶製品の出荷増
（化成品）	(5,820)	(5,025)	(△795)	原料事情悪化による亜酸化銅出荷減等
塗料部門(※)	—	3,692	3,692	
不動産部門	2,386	2,043	△342	堂島グランドビル売却(前期)に伴う収入減
燃料部門	15,452	9,893	△5,559	需要減退に伴う販売数量減並びに販売単価下落による売上減
その他	1,204	854	△349	
合計	161,857	142,925	△18,932	

〔営業利益〕

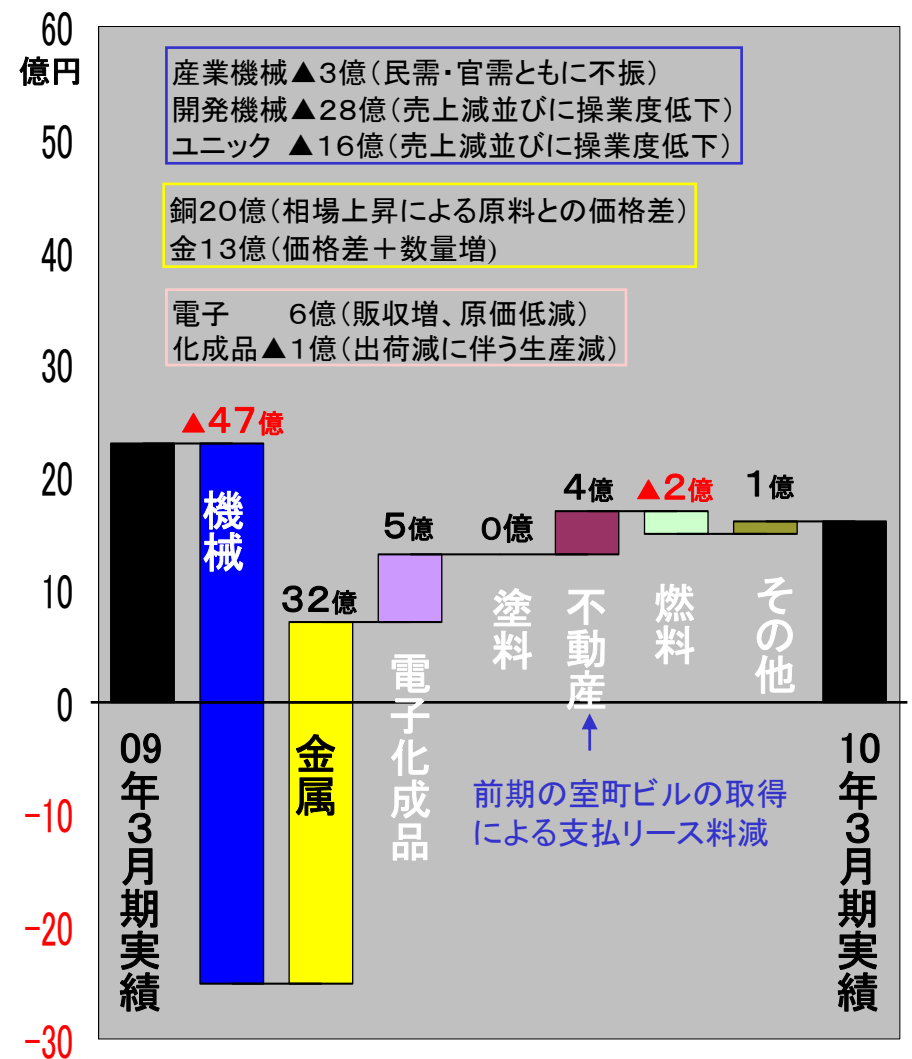
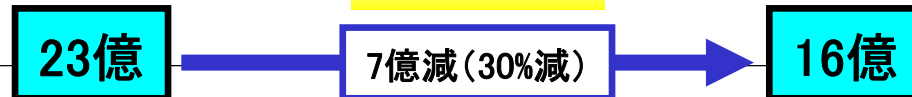
(単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	対09/3期増減	主な増減説明
機械部門	1,733	△3,009	△4,743	
（産業機械）	(767)	(433)	(△334)	売上減等による利益減
（開発機械）	(255)	(△2,572)	(△2,827)	海外出荷減少並びに工場操業度低下による採算悪化に伴う利益減
（ユニック）	(710)	(△870)	(△1,581)	売上減並びに工場操業度低下による採算悪化に伴う利益減
金属部門	23	3,224	3,201	銅・金価格上昇に伴う原料価格と売値との価格差による利益増、円高・買値条件悪化に伴う利益減を補う
電子化成品部門	206	762	556	
（電子）	(4)	(657)	(653)	売上増並びに工場操業度改善による利益増
（化成品）	(201)	(105)	(△96)	売上減による利益減
塗料部門(※)	—	△19	△19	
不動産部門	706	1,128	422	古河ビル再取得(前期)に伴う利益増
燃料部門	202	△29	△232	
その他	△304	△376	△72	
消去又は全社	△264	△83	181	
合計	2,303	1,597	△705	

売上高



営業利益



(単位: 百万円)

	09/3月期	10/3月期	対09/3期増減
売上高	161,857	142,925	△18,932
売上原価	143,651	127,302	△16,348
売上総利益	18,206	15,623	△2,583
販売費及び一般管理費	15,903	14,025	△1,878
営業利益	2,303	1,597	△705
営業外収益	1,682	1,382	△300
受取配当金	531	401	△129
その他	1,151	980	△171
営業外費用	2,992	2,868	△123
支払利息	1,728	1,680	△48
その他	1,263	1,188	△75
経常利益	993	111	△882
特別利益	6,563	2,488	△4,074
固定資産売却益	2,598	432	△2,166
投資有価証券売却益	-	610	610
豪州銅製錬関連利益	-	1,345	1,345
匿名組合出資配当金	3,962	-	△3,962
その他	2	100	98
特別損失	10,176	1,713	△8,462
固定資産除売却損	805	306	△499
事業撤退損	-	761	761
環境対策引当金繰入額	-	214	214
投資有価証券評価損	7,417	-	△7,417
テナント退去補償費用	1,305	-	△1,305
その他	647	431	△216
税金等調整前当期純利益	△2,618	886	3,505
法人税、住民税及び事業税	1,046	363	△683
法人税等調整額	2,177	△59	△2,237
少数株主利益(△損失)	74	△2	△77
当期純利益	△5,917	585	6,503

豪州銅製錬子会社における製錬設備
解体撤去費用の見直し等に伴う利益

複合木材事業撤退に伴う損失

PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の処
理費用の支出に備えるための引当

連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	09年3月期	10年3月期	対09/3期増減
資産の部			
流動資産	77,509	82,617	5,107
固定資産	110,851	122,157	11,305
有形固定資産	84,082	87,644	3,561
無形固定資産	211	964	752
投資その他の資産	26,557	33,549	6,991
資産合計	188,361	204,774	16,412
負債の部			
流動負債	64,275	73,732	9,457
固定負債	78,343	80,185	1,842
負債合計	142,619	153,918	11,299
純資産の部			
株主資本	44,551	44,850	298
資本金	28,208	28,208	-
利益剰余金	16,386	16,687	300
自己株式	△43	△45	△45
評価・換算差額等	33	4,035	4,001
少数株主持分	1,156	1,969	812
純資産合計	45,742	50,855	5,113
負債純資産合計	188,361	204,774	16,412

上場株式の時価上昇等による投資有価証券の増加並びに(株)トウペ連結子会社化による有形固定資産の増加等

(株)トウペ連結子会社化による増加ほか

その他有価証券評価差額金の増加等

■有利子負債 (単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	対09/3期増減
短期	13,171	13,077	△94
長期	79,303	81,637	2,334
有利子負債合計	92,474	94,714	2,239

トウペ連結による増加分21億円

11年3月期業績予想(連結)と主な増減説明

(単位:百万円)

	10年3月期	11年3月期 予想	対10/3期 増減
売上高	142,925	166,000	23,075
営業利益	1,597	4,000	2,403
経常利益	111	1,500	1,389
当期純利益	585	600	15

〔売上高〕

(単位:百万円)

	11年3月期(予想)	対10/3期増減	主な増減説明
機械部門	55,400	11,087	
（産業機械）	(14,700)	(1,916)	製品別営業から業界別営業への転換による営業展開促進並びに新製品投入による売上増を見込む
（開発機械）	(24,500)	(4,113)	中国、東南アジア、中近東、南米を始めとする海外成長市場への拡販を見込む
（ユニック）	(16,200)	(5,058)	ミニクローラークレーンなど”脱トラック”製品の拡販を見込む
金属部門	70,600	△533	金の販売数量減少による売上減など
電子化成品部門	10,600	△395	
（電子）	(6,200)	(230)	
（化成品）	(4,400)	(△625)	09/12株トウベ連結子会社化に伴う内部売上分消去による減
塗料部門(※)	14,700	11,007	(09/12連結子会社化)
不動産部門	1,500	△544	日本橋室町東地区再開発に伴う古河ビル建替による賃貸収入減少
燃料部門	12,400	2,507	販売数量増加による売上増
その他	800	△54	
合計	166,000	23,075	

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	11年3月期(予想)	対10/3期増減	主な増減説明
機械部門	2,770	5,779	
（産業機械）	(850)	(417)	拡販による利益増を見込む
（開発機械）	(380)	(2,952)	売上増およびコストダウンによる利益増を見込む
（ユニック）	(1,540)	(2,410)	売上増およびコストダウンによる利益増を見込む
金属部門	△480	△3,704	売値と原料費の価格差減少並びに円高・買値条件の悪化による採算悪化
電子化成品部門	1,010	248	
（電子）	(720)	(63)	
（化成品）	(290)	(185)	原材料コストダウンを見込む
塗料部門(※)	310	329	(09/12連結子会社化)
不動産部門	500	△628	古河ビル建替による賃貸収入減少並びにグループ会社移転費用発生等による利益減
燃料部門	60	89	
その他	△50	326	複合木材事業からの撤退による損失減
消去又は全社	△120	△36	
合計	4,000	2,403	

〔前提条件〕

	10年3月期 実績	11年3月期 予想
銅 価	6,101 \$/ト	6,500 \$/ト
為 替	92.9円/\$	90.0円/\$

設備投資の状況(連結)

(単位:百万円)

設備投資額	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期 (予想)
機械部門	2,496	1,736	740	500
金属部門	122	297	425	400
電子化成品部門	353	1,465	259	200
塗料部門	-	-	219	100
不動産部門	805	215	225	300
燃料部門その他	159	643	679	400
設備投資 合計	3,934	4,357	2,546	1,900

<主な設備投資>

- ・足尾地区独身寮・社宅新築
- ・その他は必要最低限の設備更新に留める

引続き必要最低限の設備更新に留める

減価償却費の状況(連結)

減価償却費	2,993	3,144	3,243	3,100
-------	-------	-------	-------	-------

研究開発費の状況(連結)

研究開発費	1,941	1,751	1,861	2,200
-------	-------	-------	-------	-------

金属製品・為替の状況(連結)

		08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期 (想定)
銅海外相場(平均)	¢/ポンド	344.0	266.0	276.7	294.8
	\$/トン	7,584	5,864	6,101	6,500
円相場 対米ドル平均(円/\$)		114.28	100.54	92.85	90.00
《古河メタルリソース(株)生産販売》		08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期 (予想)
銅 生産量(t)		95,355	90,023	84,455	91,581
銅 販売量(t)		95,808	88,989	89,456	91,581

需要低迷により減産
(△10%)

減産継続するも
減産幅縮小(△3%)

従業員の状況

	08年3月末	09年3月末	10年3月末	対09/3末増減
連結人員(名)	2,286	2,290	2,670	380
うち単独人員(名)	(210)	(196)	(207)	(11)

うち(株)トウペ 397名

中期経営計画（2008—2010年度）

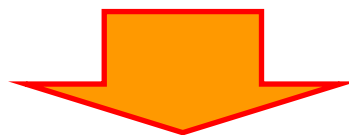
—成長への挑戦—

基本方針

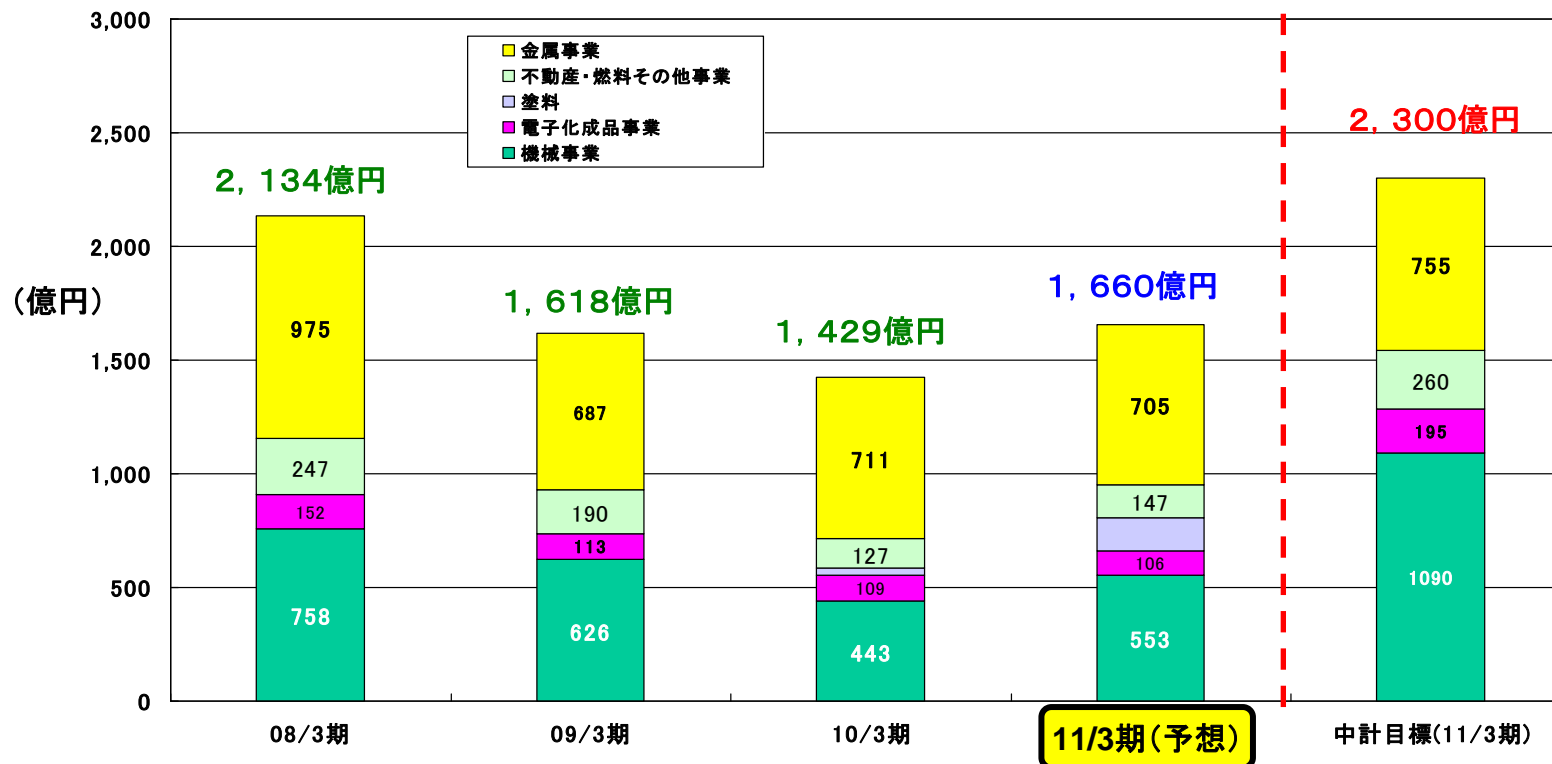
1. 機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進
2. 新製品の事業化に向けた開発の促進

2010年度 連結業績目標

売上高	2300億円
営業利益	150億円



世界不況により中計目標値の修正を余儀なくされるものの、
基本方針は堅持



【差異の主な要因】

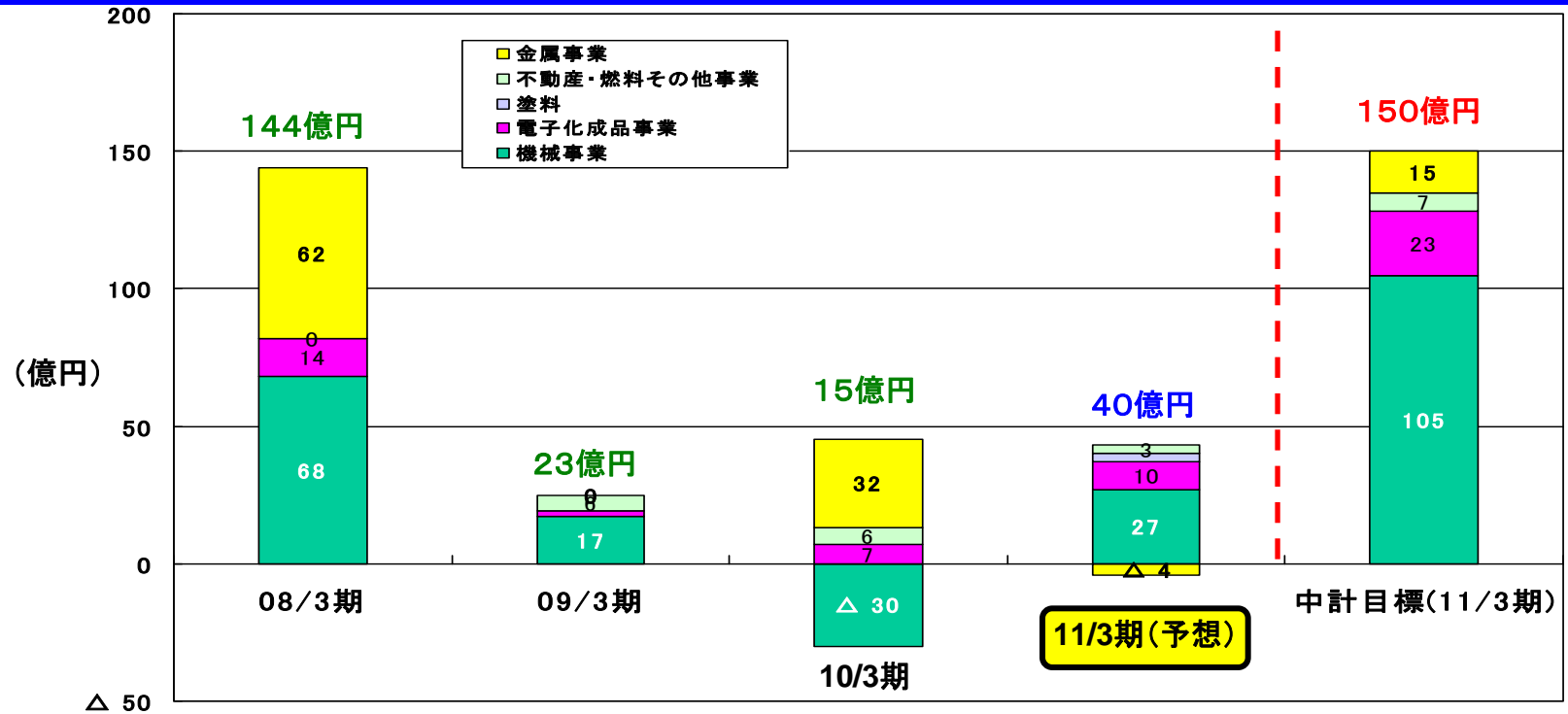
<機械部門>

- ・世界不況による市場縮小によりロックドリル・ユニック事業の海外売上高激減

<電子化成品部門>

- ・円高による海外メーカーの販売攻勢によって金属ヒ素の目標販売数量の未達
- ・新規事業であるGaN基板の市場投入の遅れ

中計目標値との差異 <営業利益(連結)>



【差異の主な要因】

<機械部門>

- ・ロックドリル・ユニック事業の海外売上高激減による利益未到達

<電子化成品部門>

- ・金属ヒ素を始めとする結晶製品の目標販売数量未達並びにGaN基板の市場投入遅れによる利益未到達

<金属部門>

- ・円高、買鉱条件悪化による採算悪化

機械事業の海外展開 (中計・基本方針)

- ロックドリル事業 中国市場への展開
その他重点地域への展開
- ユニック事業 脱トラックによる海外展開
ユニッククレーンの競争力の強化

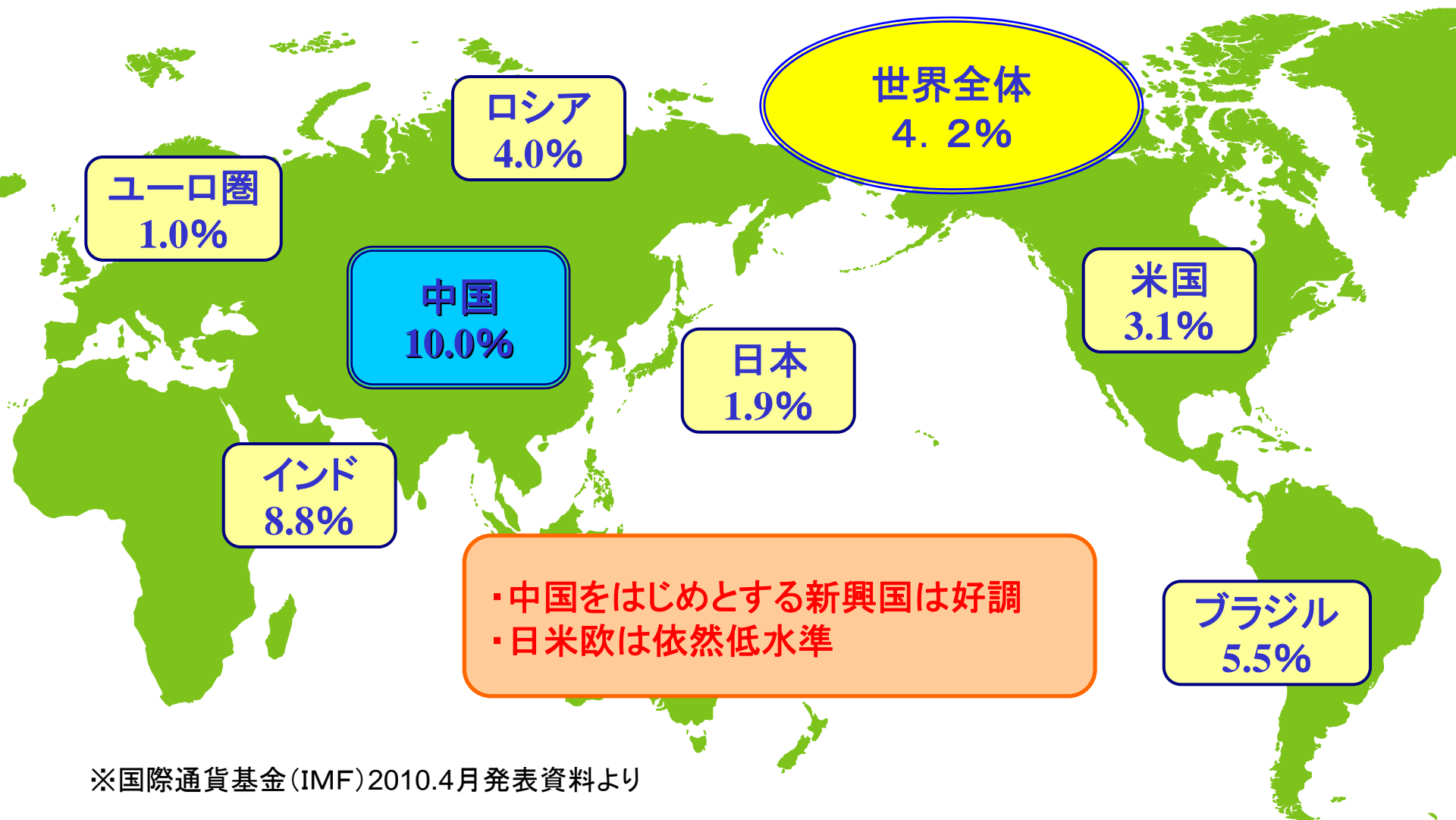
新製品の事業化に向けた開発 (中計・基本方針)

- 窒化ガリウム(GaN)基板の進捗と差別化
- その他研究開発製品の進捗

その他の施策

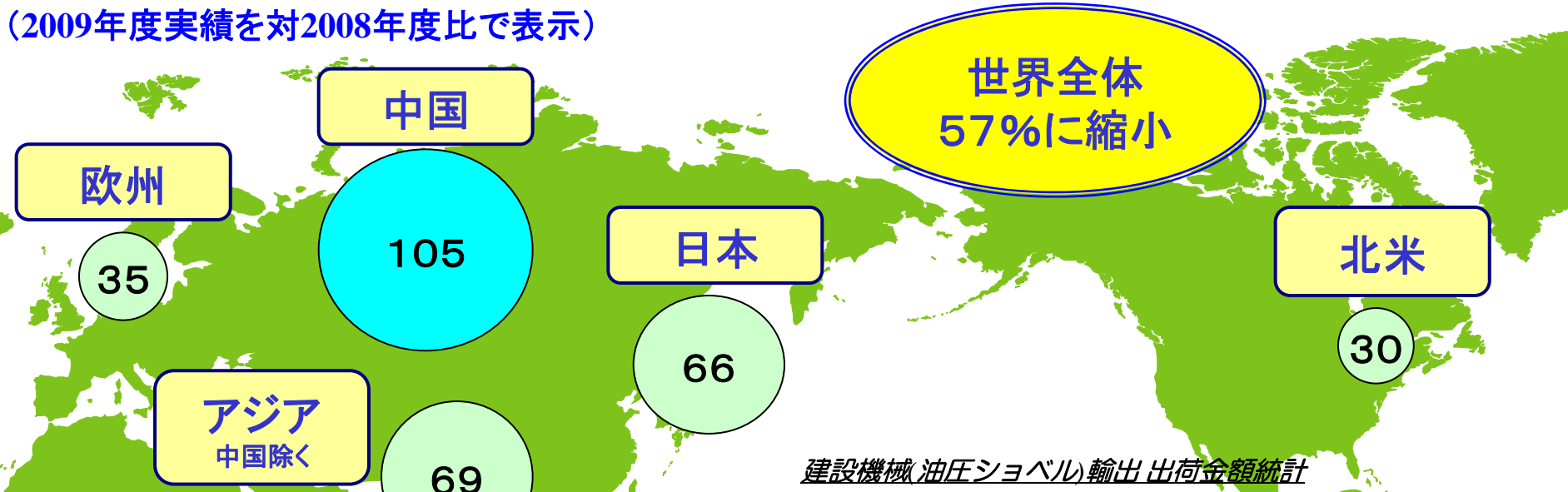
- 産業機械事業 新製品の国内市場投入
- 電子事業 新たな事業基盤の創造
- 金属事業 安定調達のための鉱山投資

2010年の経済成長率見通し



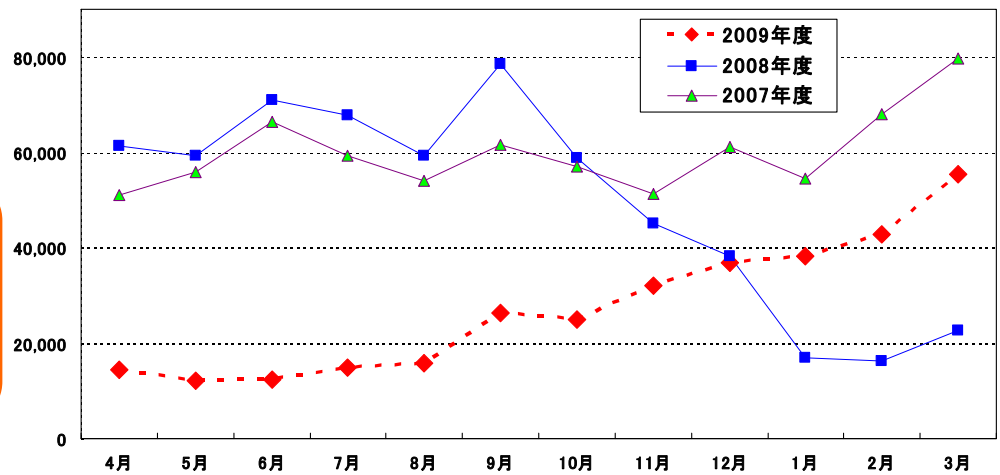
※国際通貨基金 (IMF) 2010.4月発表資料より

建設機械(油圧ショベル)の世界市場規模
(2009年度実績を対2008年度比で表示)



・中国のみ前年に比べ拡大(105%)
 ・2010年1月から輸出は前年を上回る
 →中近東、東南アジアも回復傾向

建設機械(油圧ショベル)輸出出荷金額統計



※日本建設機械工業会統計の統計資料より

ロックドリルの中国市場への展開

土木建設関連の投資案件

- ・交通インフラ整備
- ・農村インフラ整備
- ・公共住宅建設
- ・四川震災復興 など



■油圧ブレーカ

土木工事向け
 破碎・爆砕(二次破碎)向け



- ・マーケットは内陸部を中心に拡大
- ・コスト重視の傾向

ここ10年で市場は10倍に増大
 安価な韓国・中国製品中心の
 低価格市場に参入



コストダウンに注力

市場分析



■クローラドリル

破碎・爆砕向け



- ・大手さく岩機メーカーとの競合市場
- ・品質・価格は均衡

高付加価値製品の市場のため
 韓国・中国製品と差別化

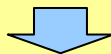


販売・サービス体制強化を図る

ロックドリルの中国市場への展開

2009年度

- ・海外販社のFRD上海の営業事務所を北京と成都に開設
- ・代理店の営業・サービスのサポート強化



2010年度

- ・日本人スタッフの拡充 2→8名体制
- ・代理店未設定地域への早期設立
- ・技術教育による代理店のサービス体制強化
- ・建機メーカーとの連携
- ・現地調達 & 組立によるコスト削減

■油圧ブレーカ

- ・コスト重視市場に対しては中国バージョンのブレーカを投入(下期)

■クローラドリル

- ・鉱山・砕石向けに競合他社にないクラスの製品で販売強化



その他重点地域への展開

東南アジア、インド、中南米、北米、中近東を重点地域と定め、拡販していく

脱トラックによる海外展開

■ミニクローラクレーン

高い評価を得ている欧州に加え、北米、オセアニアに積極展開



- ・新製品の導入、オプション品の拡充
- ・ミニクローラクレーンの需要掘り起こし



折り畳んで作業現場に移動



入り組んだエントランスホールでも



ビルの屋上でも



室内ホールで絵画も



狭い室内空間でも



狭い吹き抜けスペースでも



作業スペースが狭くても

優れたコンパクト性、狭い場所へのアクセス性が欧州で高く評価
→先進国である北米・オセアニアへも水平展開していく

ユニッククレーンの競争力の強化

■中国

- ・販売店網の再整備・拡充
- ・現地ニーズに対応し、コストパフォーマンスの高いクレーンの投入
- ・個人業務請負主への拡販
(個人業務請負主がトラッククレーン市場の約90%を占める)
- ・特装车クレーン市場の開拓



今後も拡大が見込まれ、中国にあった事業モデル構築を目指す

■アジア・中近東

- ・コストパフォーマンスの高いクレーンの投入
- アジア市場 インドネシア・インド・ベトナム・タイ他
中近東市場 サウジアラビア・カタール・イラン他



競争力を強化し収益性アップ

■欧州

- ・牽引トレーラー架装用クレーンを新発売
(建機展BAUMA2010で発表/4月)



欧州文化にあったアイデア製品で新市場開拓



新たに市場投入する
牽引トレーラー架装用クレーン



泰安古河製のユニッククレーン(4段ブーム)

窒化ガリウム(GaN)基板の進捗



2インチGaN基板

2008年4月
ナイトライド事業室を新設

- ・2インチ全面で高品質な結晶性を有する基板を開発

2009年4月
新棟を建設し拠点を集約

- ・結晶製造、研磨工程を集約

2009年度
開発品から量産品へ製造プロセスを移行
LD・電子デバイスユーザーへサンプル出荷

- ・複数枚HVPE装置を自社開発
(当社半導体装置事業室と共同開発)
- ・レーザーダイオード(LD)・電子デバイスメーカーからは品質高評価

2010年度
量産体制の確立(上期)
ユーザーのLD量産プロセスへの供給開始予定(下期)



ナイトライド事業室 開発新棟



GaN基板HVPE量産装置(自社製)



GaN研磨加工機

窒化ガリウム(GaN)基板の差別化

■レーザーダイオード(LD)向け

LD用途が多様化し、ユーザーにとって使いやすい(デバイス設計の自由度が高い)GaN基板が要求されはじめている

用途 高出力青紫色LD(ブルーレイ用)
緑色LD(ディスプレイ、プロジェクター用など)



当社のGaN基板の優位性(2インチ全面使用可能)を訴求

■電子デバイス(パワーデバイス)向け

大電流・高耐圧が求められるパワーデバイス向けに期待され、GaN基板を用いたデバイス開発が進められている

用途 パワーデバイス(電気自動車、電源用など)



GaN電子デバイス用に基板市場拡大を目指す

→パウデック社(持分法適用会社)と連携し、当社のGaN基板上へのGaNダイオード開発に着手

→電子デバイス向け大口径GaN基板の開発を加速

将来的には低コスト化に伴い高輝度白色LED向けの需要も見込める



その他研究開発製品の進捗

■ 熱電変換材料

○量産化に向けた大型焼結体を製造



○試験用に材料サンプル納入を実施し
熱電モジュールの試作を開始



○モジュールの密封ケーシングへの封入を行い、サンプル
展開を加速する

■ LuAG結晶を用いたPEM(次世代乳がん検査装置)

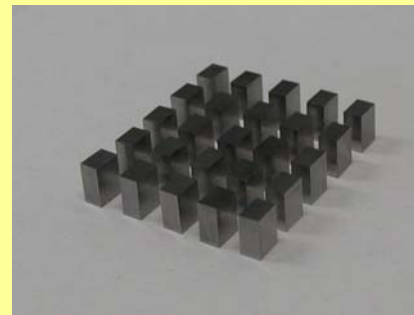
○JST(科学技術振興機構)プロジェクトによるプロトタイプPEM装置
完成(2008年度)



○NEDO助成によるPEM1号機を製作、医療機関にて
画像取得等の機能確認を実施予定



○2011年末には医療デザインを施した商用機としての
PEM2号機を製作予定



熱電材料焼結体



熱電モジュール



LuAG結晶ブロック



商用機デザイン(イメージ)



プロトタイプPEM装置

新製品の国内市場投入

■一軸ねじポンプ

ターゲット：食品業界

狙い：モノポンプの独占市場に参入
→小型、高洗浄性を求めるユーザーへ提供

差別化：従来機と比べ、小型化を実現し部品点数を大幅削減
メンテナンス性、洗浄性も向上

■トンネル工事に用いる電気集じん器

ターゲット：トンネル工事

狙い：参入メーカーが少なく、高コストなバグフィルターが普及
→ロックドリルの商圏を活かし一気に市場参入を図る

差別化：バグフィルターに比べ、ランニングコストを大幅低減

■フィルター式電気集じん器

ターゲット：ごみ焼却施設、鉄鋼・非鉄業界

狙い：老朽化設備の更新需要と省エネを求めるユーザーへ訴求

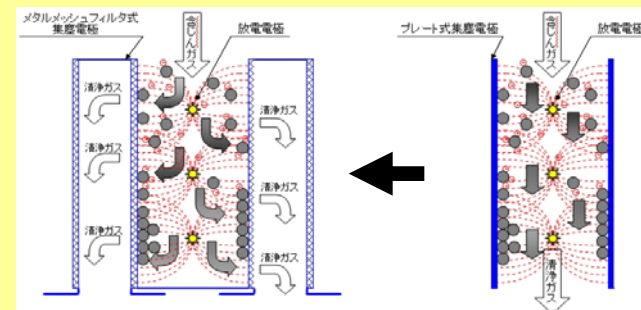
差別化：バグフィルターと同等の効率ながら電力負荷を大幅低減

フィルター機能により集じん器の効率を大幅アップ

既存集じん器の設備増強せずに置き換え可能



現場テスト中のトンネル工事に用いる電気集じん器



集じん効率は90→99%へ

当社の技術を活かした新製品を投入し、新たな収益源を増やす

新たな事業基盤の創造

■コイル

コアを自社生産できる技術を活かしニーズに沿ったコイルを提供
特に自動車部品用では多くの納入実績を持つ
(エンジンやステアリング、エアコンなどの制御回路のノイズフィルターに使用)

2009年度にはプラグインハイブリッド車(PHV)・電気自動車(EV)の
充電器用リアクトルを試作納入開始



自動車、省エネ家電向けに、同事業の拡大を目指す

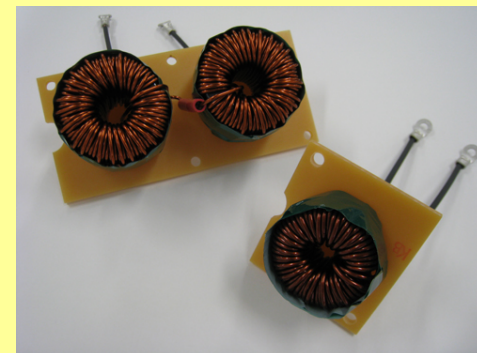
■窒化アルミ(AIN)ファイラー

熱伝導性、熱放射性、電気絶縁性などに優れた窒化アルミセラミック
ファイラーを用いた放熱シートを開発

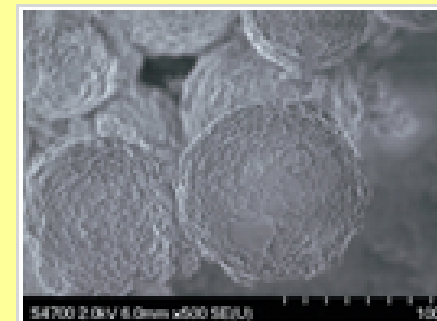
LED照明をはじめとする様々な製品において放熱シートの需要は拡大



今後の事業モデルを早期に組み立てる



PHV・EVの充電器用に試作納入したリアクトル



充填性、流動性、耐水性に優れ
高放熱性を実現したAINファイラー

安定調達のための鉱山投資

■カナダの銅鉱山権益取得の背景

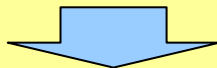
- ・中国をはじめとする銅需要の拡大
- ・資源会社のM&Aによるメジャー化



- ・銅鉱石の不足(争奪)
- ・買鉱条件の悪化



買鉱製錬業にとって
厳しい状況続く



権益取得により

- ・銅鉱石の安定調達の強化
- ・厳しい買鉱条件に耐えうる事業構造化への一歩

今回権益を取得したジブラルタル鉱山(カナダ)

生産量(精鉱量): 18万トン(銅量約5万トン) ※増強後
 可採鉱量 : 4億7,200万トン (品位Cu-0.315%)
 マインライフ : 25年

双日・DOWA・当社(25%)の3社が設立した新会社が
 同鉱山の25%の権益を取得

今回の権益取得により
 当社の自山鉱比率は約10%アップ



現在鉱石を採掘している露天掘り採掘現場



発破原石を切羽から破碎設備まで
大型建機で運搬



粗鉱から最終製品の精鉱を製造
するプラント

過去5年間の部門別実績及び業績予想

〔売上高〕

(単位:百万円)

	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期(予想)
機械部門	70,329	67,795	75,841	62,639	44,313	55,400
（産業機械）	(17,010)	(14,119)	(17,331)	(15,836)	(12,783)	(14,700)
（開発機械）	(32,778)	(33,046)	(37,497)	(29,427)	(20,386)	(24,500)
（ユニック）	(20,540)	(20,629)	(21,012)	(17,375)	(11,142)	(16,200)
金属部門	52,661	84,753	97,519	68,786	71,132	70,600
電子化成品部門	21,228	15,902	15,276	11,388	10,995	10,600
（電子）	(15,922)	(9,364)	(8,751)	(5,568)	(5,969)	(6,200)
（化成品）	(5,305)	(6,538)	(6,525)	(5,820)	(5,025)	(4,400)
塗料部門(※)	—	—	—	—	3,692	14,700
不動産部門	3,106	2,936	2,758	2,386	2,043	1,500
燃料	33,588	28,206	20,735	15,452	9,893	12,400
その他	1,022	1,154	1,294	1,204	854	800
合計	181,937	200,749	213,426	161,857	142,925	166,000

〔営業利益〕

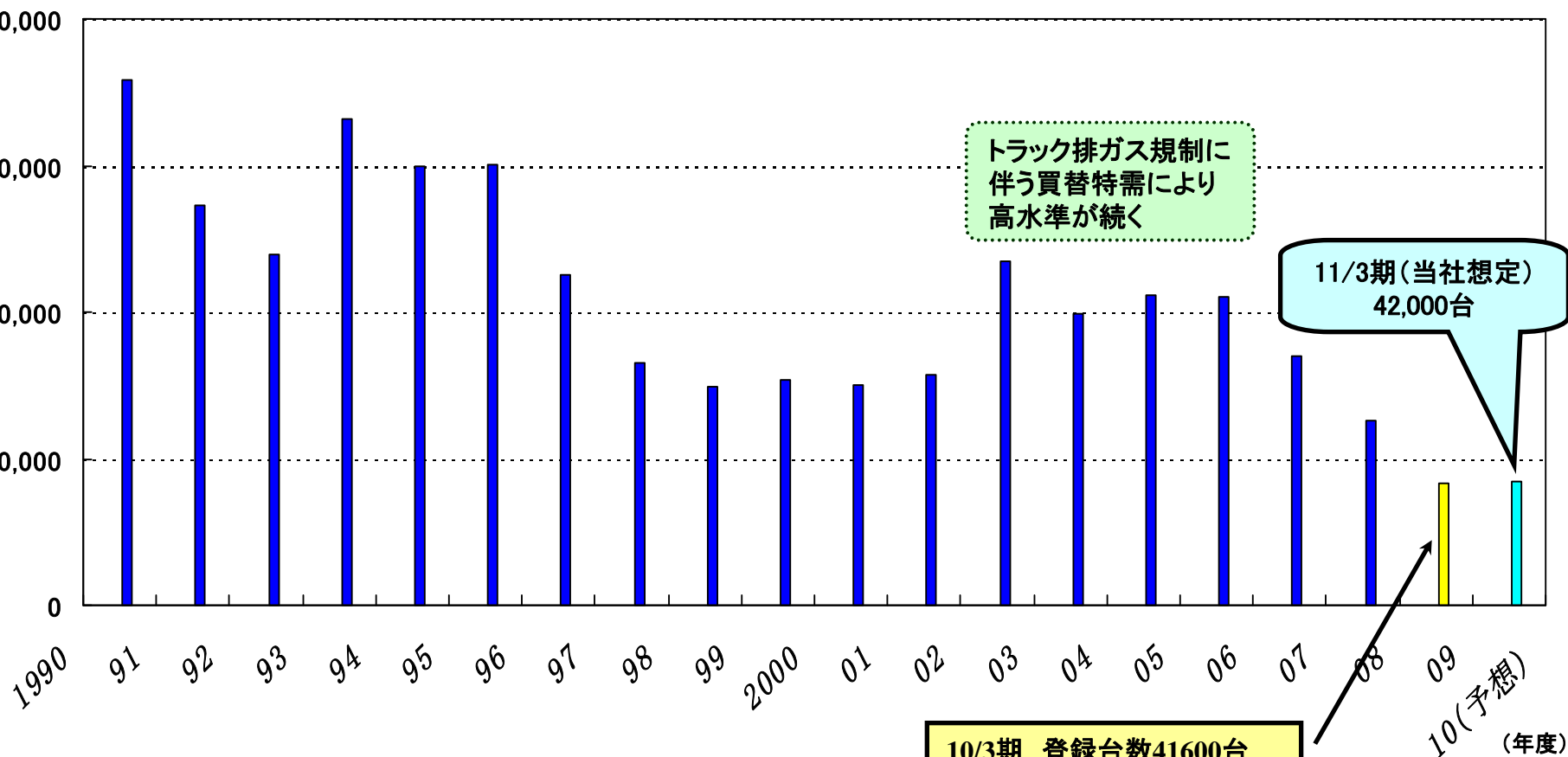
(単位:百万円)

	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期(予想)
機械部門	4,243	5,901	6,837	1,733	△3,009	2,770
（産業機械）	(△979)	(72)	(837)	(767)	(433)	(850)
（開発機械）	(2,579)	(3,120)	(3,702)	(255)	(△2,572)	(380)
（ユニック）	(2,643)	(2,708)	(2,297)	(710)	(△870)	(1,540)
金属部門	5,779	8,837	6,206	23	3,224	△480
電子化成品部門	1,497	2,088	1,455	206	762	1,010
（電子）	(1,061)	(1,386)	(984)	(4)	(657)	(720)
（化成品）	(435)	(701)	(470)	(201)	(105)	(290)
塗料部門(※)	—	—	—	—	△19	310
不動産部門	905	839	749	706	1,128	500
燃料	150	△114	△430	202	△29	60
その他	△219	△301	△228	△304	△376	△50
消去又は全社	△227	△351	△181	△264	△83	△120
合計	12,129	16,898	14,407	2,303	1,597	4,000

※09/12に㈱トウベ（塗料事業）を連結子会社化

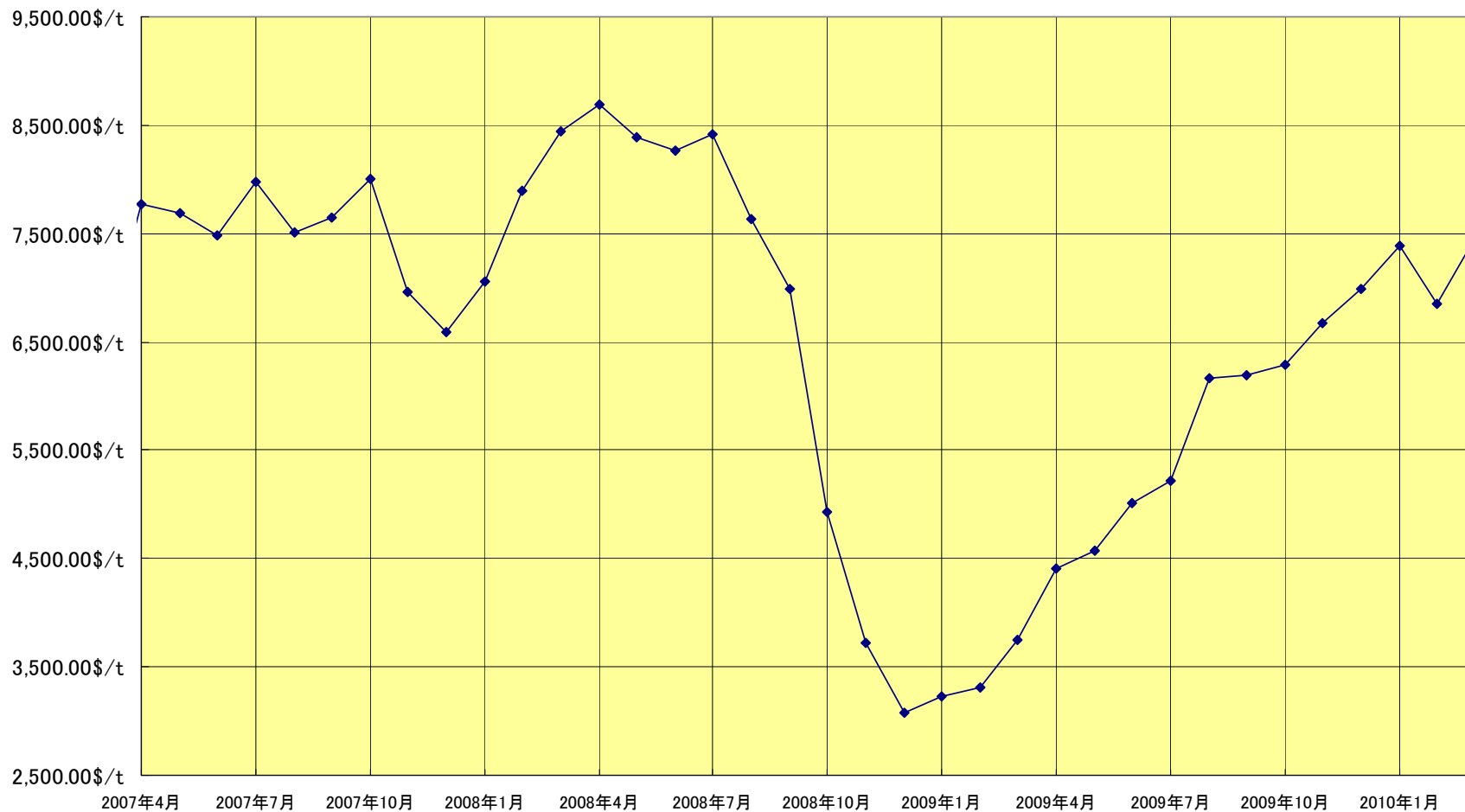
国内普通トラック登録台数推移

(単位:台数)



※当社調べ

銅価格海外相場推移(月中平均)



※当社調べ